

平成 22 年 3 月 30 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2011

課題番号：19791702

研究課題名 (和文) 退院移行期における虚血性心疾患患者の生活再編成への試み
—性差に注目して—

研究課題名 (英文)

Sexual differences in life change of person with ischemic heart
disease transitional from hospital discharge to their home living

研究代表者

安原 由子 (YASUHARA YUUKO)

徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・助教

研究者番号：90363150

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学 7502

キーワード：虚血性心疾患患者、性差、生活リズムの変化

1. 研究計画の概要

虚血性心疾患患者が、病院から自宅に戻る退院移行期に生活の再編成に向け、どのような試みをしているのかを明らかにする。本研究では、生活の再編成への試みの性差を見出すものである。

2. 研究の進捗状況

本研究の目的は、めまぐるしく生活環境が変化する退院移行期に虚血性心疾患患者がどのように生活の再編成を行っているのか、質的かつ量的に記述・測定し、性差の視点からその特性を見出すものである。

19年度は、AMI社アクチグラフ測定システムを購入し、生活リズムの変化を測定すべく時計型精密測定センサー(米国AMI社アクティグラフ)を用いてプレテストを行った。測定モード、装着部位や装着日数などが課題としてあげられたため、健常者での測定を継続しながら測定方法を同定した。

20年度は、育児休業に伴い申請保留届を提出し、研究活動を休止していた。

21年度は、研究を再開し、既存データの分析や文献検討を行いつつデータ収集に向けて、新たに研究協力体制を整備した。アクチグラフによる量的データの測定と併せて半構造化インタビューを行い、入院前から退院後の生活の変化について質的データも収集している。これらのデータを、ミックスメソッドを用いて総合的に分析し、現在、得られたデータから退院前から退院後の患者の生活変化を明らかにしている。

その成果の一部は、国際情報学会で発表した。なお、雑誌論文については、現在、英文の専門誌に2つの論文を投稿中である(査読結果待ち)。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

2年目にあたる20年度は、前述したように私事により1年間研究を中止していた。

21年度は、健常者でのプレテスト結果を勘案し、データ収集方法等を検討し直すことができた。

虚血性心疾患患者のデータを収集するために新たな施設に研究協力を依頼し快諾を得た。循環器部長をはじめ、循環器病棟・外来スタッフの協力体制が確立した。また学内では所属分野の教授からデータ収集・分析方法・論文作成など指導や助言を基に行なっている。さらに所属分野の研究補助者および大学院生の協力を得て、収集したデータを分析する体制も整備されたところである。

調査対象者の研究協力期間は1ヶ月程度であるが、これまでに途中辞退者はおらず、研究に関するクレーム等もない。これらのことから、研究計画書通り、順調にデータ収集が行えている。

しかし、女性の虚血性心疾患患者は男性よりも10歳程度高齢で発症すること、合併症を伴うことが多いことなどから、調査対象者となる母集団が少ないため、得られたデータは女性が男性よりも少ない状況である。現在の得られている対象者の比率は、男：女＝3：1の割合であり、現時点では、対象者数に違いがある。研究協力施設と連携を強固に

して、さらにデータ収集に努めたい。

4. 今後の研究の推進方策

- 1) 19年度・21年度でアクチグラフ関連製品を購入した。調査対象者数に応じて台数を増やし、データ収集がさらにスムーズに行なえるように研究体制を整えたい。
- 2) 引き続き、協力施設や所属分野教授と連携する共に、効率良くデータ収集や分析を行なえるようにしたい。
- 3) 結果の妥当性と信頼性を高めるために、得られた結果を臨床で働く循環器医師や病棟・外来看護師と検討し、考察や解釈の仕方に偏りが無いかを確認しながら行なう。
- 4) 文献検討を継続しながら、関係学会に参加し、虚血性心疾患患者の生活再編成に関することや生活リズム、性差等の新たな知見を得るように努める。
- 5) 研究で得られた結果を国際学会で発表し、議論し、今後の研究の示唆を得て、論文の投稿にも努める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件) (投稿中含む)

- ① 安原由子、虚血性心疾患患者の退院直後の病い体験—女性患者に焦点を当てて—、日本看護学界論文集—成人看護 I—、38巻、90—92、2008、査読有
- ② Yasuhara Y, Tanioka T, Kawanishi C: Fundamental Study for the Clarification of Gender Differences of ActiGraphic Assessments of Life Rhythms in Healthy Adults, International Journal of INFORMATION(投稿中).

[学会発表] (計2件)

- ① 安原由子、虚血性心疾患患者の退院直後の病い体験—女性患者に焦点を当てて—、第38回日本看護学会学術集会—成人看護 I—、北海道(札幌)、平成19年
- ② Yasuhara Y, Tanioka T, Kawanishi C: A fundamental study to clarify the life rhythms of patients with ischemic heart disease using the ActiGraph, The Fifth International Conference on Information, pp.419-422, 2009, Kyoto, Japan

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：
〔その他〕